作成日 令和 7 年 7 日作成 (3) 指標の推移 4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 シティセールス課 9年度 事務事業名 オラレ志布志事業 担当G おもてなしグループ (目標) (目標) (日標) (目標) (目標) (日標) 単位 活動指標 (実施状況) 款 項 目 備考 (実績) (実績) (実績) 予算科目 7 <産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅 1 2 4 まちづくりプラン 4 4 4 ア広報、啓発回数 口 (基本目標) 力あふれるにぎわいのまち 3 3 (個別目標) 商工業が発展し続けるまち 主な費目 使用料及び賃借料 (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (施 策) 조 2 商業の振興 成果指標 (成果・効果) 単位 (実績) (実績) (実績) 対象 商工業者 42,000 42,000 42,000 42,000 42,000 ア人場者数 (基本目標) 魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる 37, 220 34 944 平成21 年度~ 900,000 900,000 900,000 900,000 900,000 イオラレ売上額 (施 策 2 商工業賑わい創出プロジェクト 事業期間 年度 (年間) 857, 689 4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 9年度 単位 (1) 総事業費の推移 (4)評価 所管課による評価 (実績・決算) (計画・予算) (計画・予算) (計画・予算 (実績・決算) (実績・決算) 財国県支出金 千円 事源その他特定財源 千円 375 13,828 14,000 14,000 市民のニーズ 業内. | 本| 訳 | 一般財源 オラレ志布志のPRを徹底することで来場者が増え、オラレ 千円 13, 462 13,816 0 事業の効果 の売上額や相乗効果としてアピアテナントの売上増も期待 事業費計 千円 13,837 13,817 13,828 14,000 14,000 政策との整合性 (A) できる。 事業を廃止の影響 人 所要人員 (年間) 0.025 0.025 0.025 0.025 0.025 人 売上金の3%が市の収入となるため、その一部を商工業振 類似事業との連携 千円 140 140 140 140 140 興事業や教育・防犯事業に充てている。 公平性 (A) + (B) 千円 13, 977 13, 957 13, 968 14, 140 14, 140 (2)事業概要 |競艇場外発売場オラレ志布志を設置し、収入金の中から施設借上料を除く財源を基金に積み立て、地域振興 事業効果向上 に活かす。 • 事業費削減 売上増が市の収入増に繋がり、単純明瞭な仕組みで一般財 的 事務の効率化 源でなく売上収入から家賃を捻出するなど効率性は非常に · 費用対効果 事 オラレ志布志の収入金の中から、事業による協力費として3%が市に振込まれ、㈱志布志まちづくり公社の 財政負担の必要性 施設借上げ料13,461,924円/年を除く収入をオラレまちづくり基金に積み立て、教育、商工振興などの財源に 関係者との連携 充てている。 容 「オラレ志布志」を設置し、年間家賃を得ることで、㈱志布志まちづくり公社の安定的な収入の確保につな がる。また、オラレ入場者によるアピア各テナントの売上増が期待されると同時に、オラレまちづくり基金 達 • 数值目標 |を積立て、教育、商工振興などに充てることにより、各分野の振興が図られることを目的としている。 成・目指す状況 コロナ禍ではあったが、前年と同水準を維持することがで • 実現性 きた。入場者数を増やすために検討を要するが、エネル 株式会社志布志まちづくり公社の施設の一部を借上げ、競艇場外発売場オラレ志布志を設置し、収入金は施 情勢、環境の変化 ギー・物価高騰の影響も懸念される。 設借上料と市の活力あるまちづくりに資するためのオラレまちづくり基金に積み立てた。また、積立てた基 価・事業期間 金からは、防犯ノベルティとして新入学生防犯ブザーや反射タスキの購入費、商工業振興に係る創業補助金 況 にも充てている。 (1) 競艇場外発売場売上金 764,998,200円 (2) 競艇場外発売場オラレ収入金 22,949,946円 (売上金の3%) 拡充 ○ 現状維持 改善 効率化 廃止終了 成 (3) オラレまちづくり基金積立金 9,567,137円 令和 5 年度末現在高 33, 259, 893円 (内訳)収入金 9, 488, 022円、利子・配当金 79, 115円 (4) (㈱志布志まちづくり公社施設賃料 13,461,924円 (5) 教育振興及び防犯支援 455,000円 ★ 来場しやすい環境整備を行いながら顧客の信頼を得ること、啓発及びPR活動を続 競艇場外売上金は、当初の見込み額9億円に対して約84.9%の実績であり、前年と同水準を維持することがで 室 けることで、安心感と認知度の向上を図る。 きた。インターネット投票の割合が高い水準にある中で、場外発売場にいかにして足を運んでいただくか、 また新たなファン(顧客)の獲得をどう図っていくのか検討が必要である。 エネルギー・物価高騰の影響による来場機会の減少なども懸念される。

作成日 令和 7 年 7 日作成 (3)指標の推移 4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 9年度 担当課 シティセールス課 事務事業名 (目標) 観光施設改修事業 担当G おもてなしグループ (目標) (月標) (目標) (目標) (目標) 単位 活動指標 (実施状況) 款 項 目 備考 (実績) (実績) (実績) 予算科目 7 <産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅 1 3 まちづくりプラン 5 11 ア修繕筒所数 箇所 (基本目標) 力あふれるにぎわいのまち 17 24 34 22, 268 6,734 14, 323 主な費目 需用費、工事請負費 イ修繕金額 千円 (個別目標) 地域資源を生かした観光のまち 33, 309 4, 945 (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (施 策) 成果指標 (成果・効果) 単位 1 観光資源の整備、活用 (実績) (実績) (実績) 対象 市民、観光客 900,000 900,000 900,000 ア観光入込客数 (基本目標) 魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる 490 048 47 801 年度~ ☆ 6 環境にやさしいまちの推進プロジェクト (施策 事業期間 年度 (年間) 4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 9年度 単位 (4)評価 (1) 総事業費の推移 所管課による評価 (実績・決算) (実績・決算) (実績・決算) (計画・予算) (計画・予算) (計画・予算 財国県支出金 千円 事源その他特定財源 千円 業 内... 市民のニーズ | 本| 訳 | 一般財源 千円 33, 309 39, 632 34, 992 26, 797 事業の効果 ・市民が親しめる施設また地域活性化の拠点として利活用 事業費計 千円 33, 309 39,632 34, 992 26, 797 0 政策との整合性 (A) する施設としてニーズは高い。 事業を廃止の影響 ・施設を維持・運営することは、観光客誘致にも繋がり、 人 所要人員(年間) 0.050 0,050 0.050 人 類似事業との連携 事業の廃止は、大きな経済損失にもなる。 ス 費 人件費概算 (B) 千円 280 280 280 0 0 公平性 (A) + (B) 千円 33 589 39, 912 35, 272 26, 797 0 (2)事業概要 業 観光施設の整備について、経年劣化等により業務に供することができなくなった箇所を改修することによ 事業効果向上 ・必要に迫られた箇所を修繕している状態のため、事業費 目 り、サービスの維持及び向上を図る。 • 事業費削減 削減は難しい。 的 事務の効率化 ・市民が親しめる施設また地域活性化の拠点として市民や · 費用対効果 事 観光客のニーズは高いことから、財政負担は必要である。 財政負担の必要性 業 いずれの施設とも密に連携・情報共有している。 ダグリ岬遊園地、海水浴場及び蓬の郷施設の整備・修繕 ・関係者との連携 内 容 観光客誘致及び市民が親しむ施設として欠かせない観光施設について、現在指定管理として管理・運営業 条経 務を委託しているが、施設運営上必要な部分については市が修繕等を行う必要があるため。 性 緯 • 数値目標 成・目指す状況 ・安全、安心して利用できる施設としての整備・運営 • 実現性 ・コロナ禍により利用客は減少していたが、施設の維持・ 実 評・情勢、環境の変化 運営には、整備・修繕を行っていく必要がある。。 施 蓬の郷赤トンボサウナ取替修繕、ダグリ岬遊園地プール送水管漏水修繕、小西地区駐輪駐車場身障者用トイ 価・事業期間 状 レウォシュレット取替修繕等、修繕34件 工事請負6件を実施した。 況 拡充 ○ 現状維持 改善 効率化 廃止終了 修繕等を実施したことで、施設本体の維持が図られたとともに、利用者の利便性及びサービス向上に繋 がった。 ・大規模修繕にならないよう、指定管理者と情報を共有しながら日々の定期点検を | 実施し、早期発見による小規模修繕を行っていく。 いずれの施設も老朽化が進んでおり、毎年修繕箇所が出てくる。修繕計画はあるものの突発的な緊急修繕 題 が必要となるケースも多い。

作成日 令和 7 年 7 日作成 (3) 指標の推移 シティセールス課 4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 9年度 担当課 薬の郷(ふれあい交流センター以外の施設)指定管理 事務事業名 担当G おもてなしグループ (目標) (目標) (日標) (月標) (目標) (日標) 委託事業 単位 活動指標 (実施状況) 款 項 目 備考 (実績) (実績) (実績) 予算科目 7 1 3 まちづくりプラン <産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅 3 3 ア修繕件数 (基本目標) 力あふれるにぎわいのまち 2 2 主な費目 (個別日標) 地域資源を生かした観光のまち 委託料(指定管理料)、修繕料 イイベント実施回数 口 2 (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (施 策) 成果指標 (成果・効果) 単位 1 観光資源の整備、活用 (実績) (実績) (実績) 対象 施設利用者(市民·観光客) 6,600 6,600 6,600 ア施設利用人数 (基本目標) 8, 362 9,685 7, 129 平成25 年度~ (施策 事業期間 年度 (年間) 4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 9年度 単位 (4)評価 (1) 総事業費の推移 所管課による評価 (実績・決算) (実績・決算) (実績・決算)(計画・予算) (計画・予算) (計画・予算 財国県支出金 千円 事源その他特定財源 千円 6,277 6, 277 6,277 6, 277 市民のニーズ 業内. | 本| 訳 | 一般財源 ・子供たちの自然観察学習の場、市民や観光客の癒しの場 千円 事業の効果 として親しまれており、観光振興からも重要な施設となっ 事業費計 千円 6,277 6,277 6,277 6, 277 0 (A) 政策との整合性 ている。 事業を廃止の影響 人 所要人員(年間) 0.025 0.025 0.025 人 ・事業を廃止することで、市民のふれあいの場がなくな 類似事業との連携 千円 140 140 140 0 0 り、地域活性化が図られなくなる。 公平性 (A) + (B) 千円 6, 417 6, 417 6, 417 6, 277 0 (2)事業概要 業 現在ある観光資源を生かし、市内外からの観光客誘致のため、蓬の郷ふれあい交流センター以外の施設と 事業効果向上 目 なる親水公園やその周辺を委託し、魅力ある施設となるよう整備する。 • 事業費削減 ・指定管理者により造園業者の専門性を活かした適切な維 的 事務の効率化 持管理、効率的な運営がなされているため、これ以上の事 • 費用対効果 事 業費削減は難しい。 財政負担の必要性 業 親水公園と周辺施設の整備、景観の維持を含めた管理運営業務を主に、「あじさい祭り」や「オータム 価 ・関係者との連携 フェスタ」等のイベントも開催し、本市の観光施設として賑わいを創出する。 容 平成25年度から親水公園周辺施設とふれあい交流センターの管理者を分け、より専門性の高い指定管理者 こ管理運営を委託することで、効果的かつ効率的な施設運営が図られ、施設の設置目的である地域活性化の • 数値目標 ・民宿村を含めた周辺施設との連携を今以上に図り、新た 観点からも市民が自然と触れ合える施設とする必要があったため。 成・目指す状況 な自主企画などを通じ、蓬の郷周辺が一体となり、コロナ 度 実現性 禍により外出意欲の低下した市内外住民の集客を図る必要 情勢、環境の変化 親水公園及び周辺施設を特定非営利活動法人志布志みどりのプロジェクトを指定管理者として管理委託 がある。 施 価・事業期間 し、日々の清掃管理を行い地域活性化を図っている。また、指定管理者の自主事業として花壇の整備や 状 「オータムフェスタ」を行い、賑わい創出と景観の向上に尽力している。 況 拡充 ○ 現状維持 改善 効率化 廃止終了 親水公園及び周辺施設は専門業者の特性を生かした景観整備を実施し、環境学習の場や癒しの場として市 内外の利用者に広く活用されている。また、観光特産品協会と連携しイベント等を実施したことにより施設 の賑わい創出につながり、隣接する蓬の郷ふれあいセンターへの集客にも寄与した。 ・幼児や福祉関係者などユニバーサルデザインに配慮した施設整備を図る。 室・蓬の郷周辺の関係者と密に連携し、より多くの集客を図る。 近隣施設であるふれあい交流センター及び民宿村等との連携を図り、観光客や宿泊客が立ち寄りたくなる 題 ような施設とするため集客につながるイベント等の強化を検討する必要がある。

作成日 令和 7 年 日作成 7 (3) 指標の推移 4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 9年度 シティセールス課 事務事業名 ダグリ公園指定管理委託事業 担当G おもてなしグループ (目標) (目標) (日標) (目標) (目標) (目標) 単位 活動指標 (実施状況) 款 項 目 備考 (実績) (実績) (実績) 予算科目 7 <産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅 3 27, 570 27, 570 まちづくりプラン 1 27,570 ア利用料金収入額 千円 (基本目標) 力あふれるにぎわいのまち 54, 913 61,061 (個別目標) 地域資源を生かした観光のまち 主な費目 委託料(指定管理料)、修繕料 (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (施策) 成果指標 (成果・効果) 単位 1 観光資源の整備、活用 (実績) (実績) (実績) 対象 施設利用者(市民·観光客) 31,000 31,000 31,000 ア
遊園地利用者数 (基本目標) 魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる 44, 442 15 686 8 696 平成28 年度~ (施 策 観光パワーアッププロジェクト 事業期間 年度 (年間) 4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 9年度 単位 (4)評価 (1) 総事業費の推移 所管課による評価 (実績・決算) (実績・決算) (実績・決算) (計画・予算) (計画・予算) (計画·予算 財国県支出金 千円 事源その他特定財源 千円 14,840 14,840 14,840 15,690 ・ダグリ公園周辺は市の観光振興計画でも重点コンテンツ 市民のニーズ として位置付けており、本市の観光拠点となっている。特 千円 事業の効果 に海水浴場及び遊園地は、総合的な観光レクリエーション 事業費計 千円 14,840 14,840 14,840 15,690 0 政策との整合性 (A) 施設として、今後も集中的に整備活用し、観光振興及び地 事業を廃止の影響 人 所要人員 (年間) 0,500 0,500 0.500 0,500 人 域活性化を図る。 類似事業との連携 ス 費 人件費概算 (B) 千円 2,800 2,800 2,800 2,800 0 ・事業を廃止することで、本市の観光の中核施設が無くな 公平性 (A) + (B)千円 17,640 17,640 17 640 18, 490 0 り、観光客の激減が予測される。 (2)事業概要 ダグリ公園のうち遊園地及び海水浴場周辺を管理・運営することで、市民や観光客のレクリエーションの 事業効果向上 ・指定管理者により効率的な運営が行われており、様々な 目 場として快適に利用することができ、本市観光振興及び地域活性化が図られる。 • 事業費削減 メディアを活用したPRや周辺の観光関連施設との連携も 的 事務の効率化 図られている。海水浴場については、徐々に景観が整備さ · 費用対効果 事 れつつあるが、老朽化した施設の更新が必要であり、今後 財政負担の必要性 業 の財政的支出が必要である。 ダグリ公園のうち游園地及び海水浴場周辺の管理・運営を指定管理者に委託する。 ・関係者との連携 内 容 国定公園の範囲に属するダグリ岬公園のうち遊園地及び海水浴場周辺は、県内唯一の遊園地として、市の ・アフターコロナでの運営に際し、安全安心な施設運営を • 数值目標 観光振興計画でも重点コンテンツとして、重要な観光拠点となっている。 引き続き実施し市内外にPRをすることで、今後、国・県 目指す状況 のコロナ経済支援策終了後も継続して誘客に繋げる。平成 実現性 30年度の水準まで回復させ、維持することが必要である。 実 情勢、環境の変化 また、遠方への旅行ニーズへの高まりがある中、広く教 施 価・事業期間 (株) 谷口製作所が指定管理者として令和3年度から5年間の管理期間で運営を行っている。 **育旅行等の団体客の誘致にも力を注いでいく必要がある。** 状 況 拡充 現状維持 改善 効率化 廃止終了 成 令和6年度は、長雨や地震の影響により入園者が減少したものの計画対比においては黒字を維持してい 果 遊園地で現在実施しているような周辺の観光関連施設と連携しイベントを開催す 善ることで通年での誘客が可能となることから、遊園地との相乗効果が期待できる。 老朽化する施設の年次的な改修を実施しているが、指定管理者所有の遊具についても、魅力向上のための 案。遊園地の利用客が利用しやすい施設整備を継続的に行う必要がある。 題 改修及び新規導入を行っていく必要がある。

作成日 令和 7 年 7 日作成 (3) 指標の推移 シティセールス課 4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 9年度 担当課 事務事業名 総合観光案内事業 担当G おもてなしグループ (目標) (目標) (月標) (月標) (目標) (日標) 単位 活動指標 (実施状況) 款 項 目 備考 (実績) (実績) (実績) 予算科目 7 <産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅 1 3 まちづくりプラン 14 14 14 ア観光ガイド人数 (基本目標) 力あふれるにぎわいのまち 13 13 13 14,000 14,000 14,000 14,000 (個別目標) 地域資源を生かした観光のまち 主な費目 委託料 イ 総合観光案内所訪問者数 6, 315 13, 866 (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (施 策) 成果指標 (成果・効果) 単位 玄 3 「おもてなし」のまちづくり (実績) (実績) (実績) 対象 市民 · 観光客 90,000 80,000 85,000 ア宿泊者数 (基本目標) 魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる 97, 459 101 345 平成20 年度~ 900,000 900,000 900,000 イ観光入込客数 (施策 5 観光パワーアッププロジェクト 事業期間 年度 (年間) 490, 048 4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 9年度 単位 (4)評価 (1) 総事業費の推移 所管課による評価 (実績・決算) (実績・決算) (実績・決算)(計画・予算) (計画・予算) (計画・予算 財国県支出金 千円 事源その他特定財源 千円 4, 181 4,530 5. 791 5,622 業 内... 市民のニーズ | 本| 訳 | 一般財源 千円 事業の効果 観光客の案内、おもてなしをする施設は他になく業務の 事業費計 千円 4, 181 4,530 5, 791 5,622 0 (A) 政策との整合性 必要性は高い。 ・事業を廃止の影響 また、本市を訪れる観光客全てに対応するため公平性も 人 所要人員(年間) 0.100 0.100 0.100 類似事業との連携 高いと考える。 千円 560 560 560 0 0 公平性 (A) + (B) 千円 4, 741 5 090 6, 351 5 622 0 (2)事業概要 業 本市を訪れるお客様に「再び訪れたいまち」と印象付けられるよう、市総合観光案内所の運営、観光ガイ 事業効果向上 目 ドの育成等を行う。 • 事業費削減 ・観光案内所については本市のイメージを直接左右するこ 的 事務の効率化 とにも繋がるので、適切な研修等が必要であり、人件費等 • 費用対効果 事 が主な負担のため、削減余地は少ない。 観光客の案内や、情報収集、手荷物預かり、レンタサイクル対応など観光客の心に寄り添う窓口対応。 財政負担の必要性 業 観光統計情報収集業務 ・関係者との連携 観光ガイド育成によるツアーガイド 容 訪れた観光客へ懇切丁寧な観光案内と「おもてなし」をすることで、本市の魅力を伝え、再び訪れていた だくとともに、おもてなしの玄関口となるJR志布志駅周辺において、ぽっぽマルシェを開催することで、 • 数値目標 ・観光客に適切な観光情報の提供を行っている。 周辺の賑わいを創出する必要があるため。※事業開始時にはぽっぽマルシェは本事業で開催。 成・目指す状況 ・コロナ終息後に向けた、様々な取組を今のうちに協議・ 実現性 検討し、情勢にマッチした情報発信、イベント開催が求め ・情勢、環境の変化 総合観光案内所の運営を志布志市観光特産品協会に委託し、まちかど案内所運営協力依頼・観光ガイド育 られる。 事業期間 成事業・レンタサイクル・観光統計情報収集を行っている。(総合観光案内所訪問者数:10,313人、レンタ 狀 サイクル貸出件数:301件、志布志城郭符販売実績:1,330枚等) 況 拡充 ○ 現状維持 改善 効率化 廃止終了 観光案内所運営において、観光客に適切な観光情報やおもてなしを提供し、観光客のリピート率向上に寄 成 果 ・日本遺産麓地区を案内する観光ガイドの育成強化によるツアーガイドの実施。 ・コロナ禍後の観光客が増えつつある中、再訪していただくための観光PR(リ 善ピーター獲得)等、引き続きおもてなし向上に努める必要がある。 案・観光ガイドの人材育成を図るため、ガイド組織の募集について市内へ周知する。 ・後継者不足となっている観光ガイドの育成。 題

作成日 令和 7 年 7 日作成 (3)指標の推移 4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 担当課 シティセールス課 9年度 事務事業名 イベント運営事業 担当G おもてなしグループ (目標) (目標) (月標) (目標) (目標) (日標) 単位 活動指標 (実施状況) 款 項 目 備考 (実績) (実績) (実績) 予算科目 7 <産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅 3 まちづくりプラン 1 ア企画の数 個 (基本目標) 力あふれるにぎわいのまち 分野別スタッフ会議の回 負担金補助及び交付金 口 (個別目標) 地域資源を生かした観光のまち 主な費目 14 15 15 (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (施 策) 成果指標 (成果・効果) 単位 1 観光資源の整備、活用 (実績) (実績) (実績) 対象 市民 · 観光客 900,000 900,000 900,000 ア観光入込客数 (基本目標) 490 048 47 801 年度~ (施策 事業期間 年度 (年間) 4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 9年度 単位 (4)評価 (1) 総事業費の推移 所管課による評価 (実績・決算) (実績・決算) (実績・決算)(計画・予算) (計画・予算) (計画・予算 財国県支出金 千円 事源その他特定財源 千円 19, 513 20, 463 市民のニーズ 業内. ・歴史や伝統あるもの、市民の癒しや賑わいづくりになる 書 訳 一般財源 千円 13,681 19,693 事業の効果 もの、地域活性化に繋がるもの等、目的は様々あるが、そ 事業費計 千円 13,681 19, 513 19,693 20, 463 0 (A) 政策との整合性 れぞれに市民からの開催要望は根強い。 事業を廃止の影響 ・本市観光振興計画においても重要な施策に位置付けられ 人 所要人員(年間) 0,600 0.600 0,600 人 類似事業との連携 ている。 ス 費 人件費概算 (B) 千円 3,360 3, 360 3,360 0 0 公平性 ・現状で補助金の休止・廃止は祭りの継続が困難となる。 (A) + (B) 千円 17, 041 22, 873 23 053 20, 463 0 (2)事業概要 特色あるイベントを通じて観光客を呼び込むとともに、市民が知恵を出し合って協力し合い、主体的に取 事業効果向上 景気や新型コロナウイルス感染症拡大の動向など社会的 目 り組む「市民総参加型」のイベントを実施することにより、地域活性化を推進する。 • 事業費削減 情勢により寄付金の回収が困難な場合もあり、財政的支援 的 事務の効率化 も必要である。 · 費用対効果 事 また、近年の警備要員人件費の向上もあり、経費削減は 財政負担の必要性 業 本市3大まつり(お釈迦まつり、志布志みなとまつり、やっちく松山藩秋の陣まつり)を開催すること おろか、増額の必要性も出てきている。 ・関係者との連携 で、伝統文化の維持や市内外住民の癒し、地域活性化を図る。 容 ・地域活性化や賑わいづくり、市民の癒しの場の確保等。 達・数値目標 ・本市のメインとなるイベントであり、市民も開催を待ち望んでいる。 重要な観光資源として多くの入込客を誘客できている。 目指す状況 上位目標である観光入込客数の増加に寄与する部分は大き 実現性 い。今後コロナ禍での新しいイベントの形に対応した運営 実 情勢、環境の変化 方法の検討も必要である。 施 令和6年度:お釈迦まつり開催(4月29日) 志布志みなとまつり開催(7月21日) やっちく松山藩秋の陣まつり(11月10日) 価 ・事業期間 状 イルミネーション点灯式開催(11月30日)) 況 拡充 現状維持 改善 効率化 廃止終了 |令和6年度については、お釈迦まつり(主催者発表45,000人)、志布志みなと祭(主催者発表48,000人)、 やっちく松山藩秋の陣まつり(主催者発表20,000人)、志布志イルミネーション(主催者発表40,000人) 実行委員会の高齢化や人員不足もあり、担い手となる地元高校生を含む体制見直 善しを実施する必要がある。体制見直しにより、新たな企画や地域への愛着も生ま 各まつり共に実施方法を創意工夫して人員不足に対応している。市民の参画機会を増やす取り組みを考え 案れ、地域の活性化のツールの一つになる。 題 ていく必要がある。

作成日 令和 7 年 7 日作成 (3) 指標の推移 4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 9年度 担当課 シティセールス課 事務事業名 国民宿舎ボルベリアダグリ改修事業 担当G おもてなしグループ (目標) (目標) (月標) (目標) (目標) (日標) 単位 活動指標 (実施状況) 款 項 目 備考 (実績) (実績) (実績) 予算科目 1 まちづくりプラン <産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅 1 ア施設宿泊者数 (基本目標) 力あふれるにぎわいのまち 11, 720 9,049 主な費目需用費 イ温泉利用客数 (個別目標) 地域資源を生かした観光のまち 85, 806 37, 736 (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (施 策) 成果指標 (成果・効果) 単位 1 観光資源の整備、活用 (実績) (実績) (実績) 対象 市民、観光客 900,000 900,000 900,000 ア観光入込客数 (基本目標) 魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる 490 048 47 801 平成30 年度~ (施策 5 観光パワーアッププロジェクト 事業期間 年度 (年間) 4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 9年度 単位 (4)評価 (1) 総事業費の推移 所管課による評価 (実績・決算)(計画・予算) (計画・予算) (計画・予算 (実績・決算) (実績・決算) 財国県支出金 千円 事源その他特定財源 千円 業 内... 市民のニーズ 書 訳 一般財源 ・本市が指定管理を委託している当該施設は、本市の観光 千円 25, 253 27, 423 20, 815 95, 425 事業の効果 拠点でもあるダグリ岬に位置し、観光客を受け入れている 事業費計 千円 25, 253 27, 423 20,815 95, 425 0 政策との整合性 (A) 施設として核となっている。修繕・改修等行うことによ 事業を廃止の影響 人 所要人員(年間) 0.050 0.050 0.050 人 り、運営を維持するほか、利用者のサービスの維持・向上 類似事業との連携 ス 費 人件費概算 (B) 千円 280 280 280 0 0 を図る必要がある。 公平性 (A) + (B) 千円 25, 533 27, 703 21,095 95, 425 0 (2)事業概要 ・必要な箇所を修繕・改修していくことは、本市の観光振 業 経年劣化により業務に供することができなくなった箇所や能力低下の部分を改修することにより、サービ 事業効果向上 興の観点からも必要である。 目 スの維持及び向上を図る。 • 事業費削減 ・指定管理施設であることから、協定書に基づき、市と指 的 事務の効率化 定管理者のすみ分けを行い、適切に修繕・改修等行ってい • 費用対効果 事 財政負担の必要性 ・管理運営していく上で必要な修繕であり、事業費の削減 業 基本的には長期修繕計画に基づき、指定管理施設である国民宿舎ボルベリアダグリの修繕を行うが、緊急 ・関係者との連携 は難しいが、今後、民間資本を活用した修繕等も検討して を要する修繕等についても、その修繕の可否を判断した上で、修繕を行う。 いく必要がある。 容 平成12年にオープンした国民宿舎ボルベリアダグリは、施設整備後20年以上経過し、施設の老朽化から 年々修繕箇所も増えてきている。長期修繕計画や指定管理者との協定書を基に、必要な部分については市が 達 • 数値目標 修繕を行うこととなっている。 成・目指す状況 ・世界的な物価の上昇により、光熱費等の維持管理経費が 度 • 実現性 急激に値上がりしている。 実 評・情勢、環境の変化 施 価・事業期間 二階屋根瓦雨漏り修繕、正面玄関自動ドア取替修繕 、監視カメラ改修工事等28件の修繕を行った。 状 況 拡充 ○ 現状維持 改善 効率化 廃止終了 成 運営上必要な箇所について、適切に修繕を行い、サービスの維持及び向上に努めた。 果 ・劣化度調査を実施し、修繕計画を立案していく。 施設整備後20年以上経過おり、施設の経年劣等により修繕箇所も増えてきている。また、自然災害による 題 突発的な修繕も出てきている。

作成日 令和 7 年 7 日作成 (3)指標の推移 4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 9年度 担当課 シティセールス課 事務事業名 ダグリ岬公園周辺整備事業 担当G おもてなしグループ (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) 単位 活動指標 (実施状況) 款 項 目 備考 (実績) (実績) (実績) 予算科目 7 <産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅 1 3 まちづくりプラン (基本目標) 力あふれるにぎわいのまち 主な費目 (個別目標) 地域資源を生かした観光のまち 委託料、公有財産購入費 (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (施 策) 成果指標 (成果・効果) 単位 1 観光資源の整備、活用 (実績) (実績) (実績) 対象 市民、観光客 (基本目標) 魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる 年度~ (施策 5 観光パワーアッププロジェクト 事業期間 年度 (年間) 4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 9年度 単位 (4)評価 (1) 総事業費の推移 所管課による評価 (実績・決算) (実績・決算) (実績・決算) (計画・予算) (計画・予算) (計画・予算 財国県支出金 千円 事源その他特定財源 千円 18,830 4, 449 13,065 業内... 市民のニーズ ・ダグリ岬公園周辺基本整備計画及び観光振興計画におい | 本| 訳 | 一般財源 千円 3, 564 事業の効果 ても、ダグリ岬周辺の観光資源としての価値は非常に高い 事業費計 千円 18,830 4, 449 3, 564 13,065 0 政策との整合性 (A) としている。 事業を廃止の影響 ・本市観光の重点コンテンツであるため、整備をすること 人 所要人員 (年間) 0,200 人 類似事業との連携 で市内への誘客効果は高い。 ス 費 人件費概算 (B) 千円 1, 120 0 0 0 0 公平性 (A) + (B) 千円 19 950 4, 449 3, 564 13, 065 0 (2)事業概要 業 第2次志布志市観光振興計画においても重要コンテンツとなっている「ダグリ岬」公園周辺を整備し、観光 事業効果向上 ・調査検討業務に関しては、国費100%の補助事業に申請予 の拠点として活用する。 目 • 事業費削減 定であり、採択となれば費用の大幅削減が可能である。 的 事務の効率化 ・施設設置に当たり民間企業の活用を前提とし、採算性の · 費用対効果 事 高い施設の検討を行うことは、将来的な費用削減に貢献す 財政負担の必要性 業 る。 ダグリ岬公園と周辺の市有地を開発することで、本市の観光の核となる施設を整備する。 ・関係者との連携 内 容 ダグリ岬公園周辺整備基本計画において、整備区域である土地の購入を進めること。また、購入した土地 においてPFI方式での民間企業による施設整備の可能性の検討調査を行うことは、本市における観光拠点の整 要経 備として重要性が高い。また、海水浴場におけるトイレの景観の悪さから本市のイメージダウンに繋がるこ性 緯 とからも、解体による景観整備を図ることは必須である。 • 数値目標 成・目指す状況 ・ダグリ岬周辺に観光施設を整備することで、観光客の誘 実現性 客に寄与し、本市の観光のシンボルとすることで、誘客 評・情勢、環境の変化 増、認知度向上を図る。 H30年度 旧夏井壮解体工事 価・事業期間 R2年度 ダグリ岬海水浴場景観整備伐採業務・ダグリ岬海水浴場転落防止柵等設置工事 狀 R4年度 ダグリ岬周辺整備用地取得・測量設計実施 令和5年度ダグリ岬周辺整備用地伐採 況 ○ 拡充 現状維持 改善 効率化 廃止終了 開発予定地の維持管理を実施しながら開発の基本方針を策定し、次年度に計画している実施計画策定につ 成 果 なげた。 三角地の開発にあたっては、民間事業者提案制度等を活用し、開発 **屋** コストの縮減に努めていく。 開発予定地のうち残り6筆約1,000㎡が未取得である。用地取得に向け交渉を継続する必要がある。 題

作成日 令和 7 年 7 日作成 (3) 指標の推移 シティセールス課 4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 9年度 事務事業名 (目標) 大隅広域観光開発推進会議 担当G おもてなしグループ (目標) (日標) (月標) (目標) (日標) 単位 活動指標 (実施状況) 款 項 目 備考 (実績) (実績) (実績) 予算科目 7 <産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅 1 3 まちづくりプラン 8 8 8 ア事業実施数 口 (基本目標) 力あふれるにぎわいのまち 6 6 6 15 10 主な費目 その他団体負担金 (個別目標) 地域資源を生かした観光のまち イスタッフ会議の回数 口 7 (目標) (目標) (目標) (目標) (日標) (目標) (施 策) 成果指標 (成果・効果) 単位 至 2 P R・誘客活動の推進 (実績) (実績) (実績) 対象 観光客 900,000 900,000 900,000 ア観光入込客数 (基本目標) 488 437 47 801 年度~ (施策 事業期間 年度 (年間) 4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 9年度 単位 (4)評価 (1) 総事業費の推移 所管課による評価 (実績・決算) (実績・決算) (実績・決算) (計画・予算) (計画・予算) (計画・予算 財国県支出金 千円 事源その他特定財源 千円 キャンプやサイクリングなど、密を避ける旅行のニーズ 市民のニーズ 業内. | 本| 訳 | 一般財源 が高まっている。 千円 3, 578 4,556 4, 208 事業の効果 観光地が点在する大隅地域において、単独自治体での取 事業費計 千円 3,578 3, 573 4, 556 4,208 0 政策との整合性 (A) り組みではなく、近隣自治体と連携した誘客を図るため、 事業を廃止の影響 人 所要人員 (年間) 広域的な視点に立った事業を創出すべきである。 類似事業との連携 ス 費 人件費概算 (B) 千円 0 0 0 0 ・行政で組織する当会議と民間で組織するおおすみ観光未 公平性 (A) + (B) 千円 3 578 3, 573 4 556 4 208 0 来会議やOhすみっこクラブ等との連携も図られている。 (2)事業概要 大隅広域観光開発推進会議は、大隅地域のけん引役として大隅地域のブランド化を図り、戦略に基づく一貫 事業効果向上 ・コロナ禍において観光入込客の激減した大隅地域への入 したプロモーションを展開し地域資源を活用した地域の「稼ぐ力」を創出し、将来的には集客・消費拡大に · 事業費削減 込客の増を図る様々な施策を展開する必要があるため、よ よる地域産業の振興、雇用創出、定住促進を目指しながら大隅らしい観光地域づくりに取り組む。 的 事務の効率化 り効果的・効率的な事業を実施することは当然とした上 · 費用対効果 で、事業費の削減は難しい。 事 ①副首長、課長会、担当者会の開催 財政負担の必要性 ・特におおすみ観光未来会議とは密に連携しており、誘客 ②大隅広域観光推進事業 ・関係者との連携 事業を実施している。 ③薩摩半島・大隅半島を繋ぐ周遊観光促進事業 ④大隅半島誘客促進事業 ⑤大隅半島観光魅力発信事業 ⑥大隅PR推進事業 ⑦観光かごしま大キャンペーン推進協議会への参画 容 本市は、さんふらわあやIR志布志駅を活用した大隅半島への玄関口であるが、大隅半島の魅力ある観光ス ポットは大隅半島全域に点在していることから、本市単独の観光振興策だけでなく広域的な観光振興の視点 ・マイクロツーリズムニーズにも限りが見える中、近隣県 幸 • 数値目標 だけでなく遠方からの修学旅行誘致を図る。 を持って本市の観光入込客増対策や観光特産品振興を推進することが必要である。 成・目指す状況 ・密を避ける観光客誘致のため、広域的に連携し、サイク 度 実現性 ルツーリズム等にも取り組む。 評・情勢、環境の変化 ①課長会(4回)、担当者会(7回) ・少しずつ回復傾向にある合宿団体の誘致に向け、旅行A 施 価・事業期間 ②ドライブスタンプラリーの開催(いぶすき広域観光推進協議会との連携) イベント期間8月~10月 GT訪問を積極的に行う。 状 ③大隅半島団体旅行誘致促進事業 申請23件 交付23件 況 拡充 ○ 現状維持 改善 効率化 廃止終了 関係市町の観光特産品素材の活用状況やPR手法を課長会や担当者会を通じて共有することで、大隅広域観 光開発推進会議の強みを生かした観光誘客が可能となっている。 SNS等を活用した効果的な情報発信を充実させる必要がある。 本市への観光誘客については成果がでているものの、目標とする大隅地域4市5町全域への送客や誘客まで は至っていない現状がある。これが実現した場合、本市にはより一層の誘客が見込まれるため、官民一体と なった更なる観光地域づくりが必要である。

作成日 令和 7 年 7 日作成 (3)指標の推移 担当課 4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 9年度 シティセールス課 事務事業名 ダグリ岬海水浴場周辺海岸漂着物処理委託事業 担当G おもてなしグループ (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) 単位 活動指標 (実施状況) 款 項 目 備考 (実績) (実績) (実績) 予算科目 7 1 3 26 まちづくりプラン <産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅 26 26 ア回収作業 口 (基本目標) 力あふれるにぎわいのまち 26 26 26 (個別目標) 地域資源を生かした観光のまち 主な費目 委託料 (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (施 策) 成果指標 (成果・効果) 単位 1 観光資源の整備、活用 (実績) (実績) (実績) 対象 市民、観光客 (基本目標) 年度~ (施策 事業期間 年度 (年間) 4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 9年度 単位 (4)評価 (1) 総事業費の推移 所管課による評価 (計画・予算) (計画・予算) (計画・予算 (実績・決算) (実績・決算) (実績・決算) 財国県支出金 千円 1,552 0 748 2,200 事源との他特定財源 千円 538 市民のニーズ 書 訳 一般財源 千円 187 550 事業の効果 ダグリ公園周辺は市の観光振興計画でも重点エリアとし 事業費計 千円 2,090 0 935 2,750 0 (A) ・政策との整合性 て位置付けており、特に海水浴場及び遊園地は、総合的な 事業を廃止の影響 観光レクリエーション施設として、今後も集中的に整備活 人 所要人員(年間) 0.025 0.025 0.025 類似事業との連携 用し、観光振興及び地域活性化を図る。 ス 費 人件費概算 (B) 千円 140 140 140 0 0 公平性 (A) + (B) 千円 2 230 140 1,075 2, 750 0 (2)事業概要 ダグリ岬海水浴場周辺に漂着する海洋ごみ等の回収・処分を委託することにより年間を通じた景観維持を図 事業効果向上 り、市内外から訪れる利用者に気持ち良く利用してもらい、観光拠点としての魅力向上及び地域経済活性化 • 事業費削減 を図る。 海水浴場は、毎年の台風、大雨により漂着する海洋ごみが 的 事務の効率化 滞留し、海岸が荒らされていくため、海洋ごみの回収・処 · 費用対効果 事 分を行う必要である。 財政負担の必要性 業 ダグリ岬海水浴場周辺に漂着する海洋ごみ等の回収・処分を委託する。 ・関係者との連携 内 容 |国定公園の範囲内に属するダグリ岬公園のうち海水浴場周辺は、市の観光振興計画でも重点エリアとして重 安経 性 推 性 複 • 数值目標 目指す状況 • 実現性 情勢、環境の変化 通年管理分 春季(4月~6月)2回/月 夏季(7月~9月)5回/月 秋・冬季(12月~1月)1回/ 施 価・事業期間 状 況 拡充 ○ 現状維持 改善 効率化 廃止終了 8月末に発生した台風10号の影響により大量の漂着ごみが発生したが適正に処理することができた。 課 題

		令和	7	年度	争務等	予 案 4	ネシメン	トンー	Γ					作成	日 令和	口 7 年	Ξ 7	月 1	日作	成	
								担当課	担当課 シティセールス課		(3	(3)指標の推移		4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度		
事	務事業名	蓬の	の郷 (ふれあい交流センター) 指定管理委託事業 担当G おもてなしグループ									活動指標(実施状況)	単位	(目標)		(目標)	(目標)	(目標)	(目標)		
					- Anto-64	l	会計 款 項 目 備考 1 7 1 3		┖	112071100 ()000-(100)	1 122	(実績)	(5 - 1) (5	(実績)							
(基本目標) 興 3 力あふれるにぎわいのまち						予算科			F	ア	年間利用者数	人	200, 000 148, 651		20, 000 167, 270						
													140,001	107, 754	101, 210						
(個別目標)						主な費	目	委託料		イ											
(施 策)	体 1	観光資源の整備、活用 成						成果指標(成果・効果)		(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)					
	ル 水 /	糸 1	西北ノしり	ルノロス (47) ** / 112 / 114 / 11				対象		市民、観光客		Ľ	スペ1日示 ()スネ <i>州</i> ネ/	単位	(実績)	(5 - 1.5 ()	(実績)				
(基	本目標)	総							ア			観光入込客数	人	900, 000		900, 000					
		合							+	年度		-			490, 048	577, 789	547, 801				
(施 策)	略						事業期	間	年度		イ									
(1)	公主芸芸の	- 1/1 :49	単位	4年度	54	年度	6年度	7年月	度	8年度	9年度)評価	所管課による評価							
(1)	(1) 総事業費の推			(実績・決算	(実績	・決算)	(実績・決算	(計画・	予算) (計画・予算)	(計画・予算)	[] (4) (1)									
年間 事	財 国県支		千円									l	・市民のニーズ	・子供たちの自然観察学習の場、市民や観光客の癒しの場							
) All	. 出ての他の		千円 千円	12, 24				0	0			有									
月費	表 一般財 事業費計	(A)		12, 24		0		0	0			効	事業の効果政策との整合性	として親	として親しまれており、観光振興からも重要な施設となっ						
ルス	所要人員		人	0. 028		· ·		•				性	事業を廃止の影響	ている。 ・事業を廃止することで、市民のふれあいの場がなくな							
コー件ス一費	人件費概算	算 (B)	千円	140)	0		0	0	0		価	・類似事業との連携			が図られ			ノン・カカロ・・よ	14	
1	(A) +	(B)	千円	12, 384	1	0		0	0	0]	・公平性								
	事業概要											Ц									
事業	市民の。	ふれあり	ハ交流	の促進、地垣	間交流の	の促進、作	健康ライフ(り増進、青年	〉年0	の自然観察学習の	の促進及び地										
目	域の活性化を図る。						DEMON IN	THE TO THE DESIGNATION OF THE PROPERTY OF THE				効率	・事業効果向上 ・事業費削減	・市内外のお客様の憩いの場として安定的に運営している							
的											性	・事務の効率化 ・費用対効果	こと、お風呂だけでなく地元特産品の提供販売を実施する など、本市になくてはならない有明地域の拠点施設として								
事業	蓬の郷	(ふれる	あい交	流センター)	を中心と	としたお	風呂や地元	寺産品を味∤	っうこ	ことができるレストランと宴		評	・質用対効果 ・財政負担の必要性	など、本市になくてはならない有明地域の拠点施設として運営されてるのでこれ以上の事業費削減は難しい。					200		
井内			也元特産品を販売する魅力的な売り場づくり					じて、市内タ	トからの利用客が集っ		施設として	価	・関係者との連携								
容	営業を行	o 。																			
业 県 ビ 妊	平成25年	王度か!	ら親水	公園周辺施設	とかれま	あい交流	センターのタ	管理者を分に	l												
安 100	一に官埋車?	営を委託	託する	ことで、効果	いかつか	効率的な	施設運営が[図られ、施記	との記	设置目的である は	地域活性化の	達	数値目標								
性緯	観点から	観点からも市民が自然と触れ合える施設とする必要があったため。										成	・目指す状況	・親水公園や民宿村を含めた周辺施設との連携を今以上に							
実	年間施設和	利用者	167,	270人(平成:	30年度対	比 221.	. 044人 75.	6%)					・実現性 ・情勢、環境の変化	図り、新たな自主企画などを通じ、蓬の郷周辺が一体となり、集客を図る必要がある。					体とな		
施	(1)風呂利用者: 120,846人(平成30年度対比 151,630人 79						,630人 79.	6%)	5%)			価	・事業期間	V V V C C C C C C C C C C C C C C C C C							
状況	(2)レストラン利用者:31,970人(平成30年度対比 47,621人 67. (3)宴会利用者:14,449人(平成30年度対比 21,793人 66.3%)								1%)			ı									
₽L	(3)安公/	פר נדיקניי	. 14, 4	437((十))(3)	7千尺//1	4 21, 1.	90,700.0	0)				Ͱ									
成	 コロナ禍において減少した利用客は回復傾向にあるものの未だに24.4%減となっている。風呂営業につい							日党業につい		拡充	現状維持	寺 〇	改善		効率化		廃止終了				
果	ては、物価高騰が長引いており厳しい状況であるが営業を継続する										改	・周辺施設と連携した集客イベントの実施を検討する。									
																			単改		
2000		Manufacture War and a second and a second as a second									善善										
課題	課 施設安定運営のためには、利用客の獲得が必要なため、周辺施設と連携した集客対策につい 題 く必要がある。								長客対策につい	て検討してい	案										
ROR	、必要D*0	1) 'W 0																			

 167270
 221044
 0.756727

 120846
 151630
 0.796979

 31970
 47621
 0.671342

 14449
 21,793
 0.663011